

## 児童一人一人の支援を充実させる校内体制の確立に向けて

今年度で最終年度となる特別支援教育コーディネーター研修会ですが、45名の参加がありました。今年度は、過去2年間に参加していない学校を対象に予定しておりましたが、希望での参加も可としたところ、20名以上の希望参加がありました。各校での特別支援教育に対する課題意識の高さと、取組が充実してきていることを感じました。

### これからの特別支援教育の充実に向けて

#### ◆「校内体制と児童生徒についての情報共有」

校内体制づくりにおいて、職員間の役割分担を明確にすると同時に、児童生徒の情報共有をどのように充実させるかがポイントになります。

#### ◆「学級経営と授業」

支援が必要な児童生徒がいる学級では「お互いを認め合う雰囲気づくり」と「規律ある集団づくり」がポイントになります。

また、落ち着いた授業づくりには「座席配置の工夫」、分かりやすい授業づくりには「自然に視線を集める板書の工夫」が大切になります。

#### ◆「個別の教育支援計画」

短時間で児童・生徒の実態から支援方法までを簡単に記入することができ、「個別の指導計画」との違いを示した様式例が提案されました。使用された方からは「書きやすい」と感想をいただきました。

#### 「個別の指導計画支援作成ソフト」を 実際に操作しての演習講座



パソコンを持参してもらい、小学校用と中学校用の2種類の指導計画作成ソフトを実際に操作しながら演習を行いました。

これらのソフトは、児童生徒のつまずきの特徴を段階的に絞り込む中で、行動の背景を探り、支援方法を想定できるように作成したものです。一度操作の仕方を聞くだけで、誰にでも扱える手軽さのため「すぐに活用してみたい」という声が、たくさん聞かれました。

多くの学校で活用するようお願いいたします。

### 一関中学校の効果的な取組から

～連携の工夫をした校内体制の実際について～  
特別支援教育コーディネーター 佐々木安津子先生

#### ◆「校内体制」の位置づけと全体計画

配慮が必要な生徒を支援するための特別支援教育校内体制は、生徒指導主事と役割分担を明確にしなが、お互い補完し合うように組まれています。



また、目標達成までの具体的な手立てが細かく計画されていました。何よりも、さまざまな場面ですぐに特別支援と生徒指導の機能を生かし相談し合える柔軟な体制が校内に確立されていることが素晴らしいと感じました。

#### ◆年間計画と「個別の指導計画」の作成

取り組むべき内容が、月毎に計画的に組まれることによって、1年間の見通しをもった支援が行われています。個別の指導計画については、作成・活用・保管といった流れが計画的にシステム化されており、大変参考になるものでした。

#### ★参加者からの感想 (一部抜粋)

- ・ 校内体制がしっかり生まれ、担任や担当者が情報や状況を共有しながら、連携をとり進められていることを学びました。学校体制の大切さを感じました。
- ・ 特別支援教育年間計画と個別の指導計画作成の手順が参考になりました。校内の指導の流れがすっきりとしており、分かりやすいことが、全教職員の足並みをそろえる上で大切だと思いました。

## 総合訪問から学ぶ！

### 一関市立本寺小学校

#### ●完全複式学級のよさを生かして

全校児童31名の小規模校。異学年一体となった活動を工夫し、縦割り班活動も仕組みながら、好ましい人間関係の育成を図っています。不登校児童「0人」が続いています。校内研究では、間接指導の中でも自ら学びを進める児童の育成を目標に取り組んでいます。教科リーダーを中心とした学び合いを工夫し、複式のよさを生かしています。

#### ●意欲を高める家庭学習

毎学期、中学校と連携して家庭学習強化週間を2週間設定し取り組んでいます。ひとり勉強ノートを展示し、「HKB31」と称した「総選挙」を行い、良いノートを表彰しています。子どもたちの意欲を喚起する楽しい取組になっています。

#### ●アイデア光る、空き教室の活用

地域学習の成果を資料として掲示した「本寺ルーム」や、楽しく外国語活動したくなる「イングリッシュルーム」など、空き教室を有効活用しています。

